

## ニュース再チェック!

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶1

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶2

**デフレ** / **安く買ってはいけないの?**

トヨタの「セールの目玉」が、安く買ってはいけないの? という問いかけから始まる。この問いかけは、デフレが長く続くと日本経済を苦しめてきたデフレを、モノやサービスの値段が下がり続けるという現象から引き出す。政府と目録が加算される。しかし「安く買える」との問いかけは、ネット

良いものを安く買って、低い金利でローンを組んで、病気になったら病院へ行く…。そんなあたりまえの暮らし方が日本経済の足かせになっているのです。

「いずれ安くなる」という消費者の心理が日本経済を苦しめてきたデフレの正体。デフレで売り上げが増えない企業は給料を増やしません。消費者は安いモノしか買わずに、経済は縮小する一方。だから日銀は毎年2%の物価上昇を目指しているのです。

市販薬を買うより、病院で薬を処方してもらう方が安く思えます。でもそれは病院の窓口で払っていないだけで、私たちの健康保険料や税金でまかなわれているのです。高齢化が進み医療費はさらに膨らみ国家財政は逼迫します。一人ひとりが医療に対するコスト意識を持たないと将来の負担が増大します。

2017年5月2日 日本経済新聞朝刊5面 (抜粋)

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶3

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶4

**財政** / **病院に行く私が悪い?**

千歳市に住む北條千代子さん(仮名、24)は花粉症の薬を病院で処方してもらった。市販薬を買うよりも安かった。けれど、症状を抑えるアレジオン(20)の処方料がドラッグストアで買った1錠あたり165円ほどだ。病院で1錠で261円。診察にかかると初診料などを含めても3000円以下とかなりお得だ。体調がすぐれなければ、病院に行く、こんな当たり前なこと日本でも問題になっている。お薬がかりすぎていらいら。花粉症の薬を病院でもらう方が市販薬より安いのは税金の払い方に違いがあるため。病院が安売りにしているわけではない。

4月28日、高級商業施設GINZA SIXが開幕して最初の週末を迎えた。ジミーチュウやマンロフなどの有名ブランドの前はごみ列だ。しかし、助けたが、若い女性は話した。「安い物はいい、私には、いつもの百貨店にあるもので十分」。

「車が節約」が、貯蓄海外旅行や、車を売却しては損と言われる。

い。日本経済団体連合会の神原正史会長は最近の若者について嘆く。ただ「ほどほど」が悪いわけではない。かつて日本が大きく成長した時代は公共などの問題が起きた歴史もある。

高い政府目標  
それでも政府は毎年のように「成長戦略」を打ち出す。2016年の戦略では「戦後最大の成長率6.0%以内の実現を目指す」と宣言した。16年の名目GDPは55.7兆円。目標の2017年度は毎年3%ずつ成長する計算だ。

2017年5月3日 日本経済新聞朝刊5面 (抜粋)

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶5

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶6

**低金利** / **ローン安く、お得だけど**

香川県の不動産会社で戸建て住宅の営業を担当する田中純一さん(仮名、29)は忙しい。物件のト見に資料作成などを終え、帰宅するのは夜10時ごろ。顧客として一生の買い物「住宅」を完結することが、最近少し疲れてきた。日本では多くの企業が働き方の見直しを進めている。早勤務に残

「0.6%でいいなら別に目を覚めた。11年前に組んだ住宅ローンの金利は30年で返済型で年3%。銀行に借り換えを相談して、5%分の金利を提案された。日本は歴史的に低金利が続いている。日銀が銀行から預かる金の一部で金利をマイナスにする政策を打ち出し、世の中

働かずに済む問題になるのが長時間労働だ。経済協力開発機構(OECD)によると、日本人の1週間あたりの平均労働時間は35時間28分と、フランス人の2倍、先進国が最もOECD加盟国で最も長い。

働かずに済む問題になるのが長時間労働だ。経済協力開発機構(OECD)によると、日本人の1週間あたりの平均労働時間は35時間28分と、フランス人の2倍、先進国が最もOECD加盟国で最も長い。

2017年5月4日 日本経済新聞朝刊3面 (抜粋)

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶7

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶8

**働き方** / **長時間労働なぜダメ?**

美いといわず、会社のために働いてきたビジネスパーソンたちを憂えなければ、国も企業も成長しないといわれているのだ。しかし、頑張っているのに成長しないというのはいかに悩ましい問題か。

職務範囲が曖昧  
働き方です。問題になるのが長時間労働だ。経済協力開発機構(OECD)によると、日本人の1週間あたりの平均労働時間は35時間28分と、フランス人の2倍、先進国が最もOECD加盟国で最も長い。

2017年5月5日 日本経済新聞朝刊3面 (抜粋)

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶9

**謎×経済**  
ナゾミクス  
▶10

**GDP** / **「ほどほど成長」は悪い?**

背伸びこそ社会の活力

2017年5月6日 日本経済新聞朝刊5面 (抜粋)

### ■ローン安く、お得だけど

低金利はお金を借りる人にはお得です。しかし、金利低下で預金がうまく集まらず、貸し出し金利も下がって銀行の経営を圧迫しています。そのため、銀行は融資をためらうようになってきています。低金利が長く続いたことで、低金利による景気浮揚効果が薄れてきています。

### ■長時間労働なぜダメ?

多くの企業が働き方の見直しを進めるのは米国の6割にとどまる労働生産性を高めるため。疲れて働く意味を見失うと仕事の効率は下がります。従業員が気持ちよく働き、十分な成果を出せるように働き方改革は進められているのです。

### ■「ほどほど成長」は悪い?

政府が高い成長目標を掲げるのは、低成長では満足いく暮らしができない人が出ると考えるから。給料が増えないと消費は停滞しデフレに逆戻り。背伸びすることが社会の活力であり、成長の原点なのです。

## 日経ヨクコム ワンポイント レツスン

「ニュースを「鳥の目」で見よう」



ものの見方には3つの目があるといわれています。近づいて様々な角度から見る「虫の目」、高い位置から広範囲を見る「鳥の目」、潮や水の流れを見る「魚の目」です。ニュースは鳥の目で見ましょう。そのためには、一つひとつのニュースを知るだけでなく、それぞれのニュースの持つ意味やそれ

がなぜ起こったのかという背景を知ることが大切です。背景が分かれば、それぞれのニュースが関係し合っていたり、影響し合っていたり、反発し合っていたりすることが分かります。鳥の目でニュースを見れば、社会の全体感を見ることができ、根本的な課題や問題点が見えてくるようになります。